

知床世界遺産シンボルマーク選考委員会について（案）

1. 目的：

「知床世界自然遺産地域連絡会議」（事務局：環境省、林野庁、北海道）が、知床世界自然遺産について広く国内外にアピールしていくことを目的として「知床世界自然遺産」のシンボルマークを定めることとし、1月16日から募集を行っている。応募作品の中から、最優秀賞（1点）及び優秀賞（3点）を選定するため、選考委員会を開催する。

2. 期日：平成21年3月27日（金） ①1次審査 10:00～12:00

②2次審査 14:00～16:00

3. 審査者：

①1次審査：知床世界遺産地域連絡会議構成員（オブザーバーを含む。以下、「審査員」という。）

②2次審査：知床世界遺産シンボルマーク審査委員（以下、「審査委員」という。）

○菅原 耕治 ※審査委員長

北海道デザイン協議会副会長（株）アイ・エヌ・ジー代表取締役（アートディレクター）

○伊藤 千織

北海道デザイン協議会理事（プロダクトデザイン）

伊藤千織デザイン事務所、北海学園大学非常勤講師、道都大学非常勤講師

○中川 元

知床博物館館長、知床世界遺産地域科学委員会委員

○桜井あけみ

ウトロ在住イラストレーター

○小野寺宏二

羅臼小学校校長

※敬称略

4. 場所：ゆめホール知床（北海道斜里郡斜里町本町4番地） 公民館ホール

5. 審査の流れ：

①1次審査：応募全作品のなかから、審査員が投票を行い、100点程度を選定する。

②2次審査：1次審査で選ばれた100点程度のなかから、審査委員の投票及び合議により、最優秀賞1点、優秀賞3点を選定する。

*応募数が多数だった場合には、1次審査に先立ち事務局による事前審査を行う場合がある。

6. 入賞作品の公表：

2次審査終了後、既存の類似作品が使われていないかどうか等の確認を行った上で、4月上旬に、直接入賞者に連絡をするとともに、ホームページ (<http://www.shiretoko.or.jp/symbolmark/>) にて発表。

7. 選考委員会の公開：

1次審査と2次審査の両方の冒頭撮りを公開対象とする。

8. 入賞作品の表彰

知床世界遺産センター開所式（4月後半予定）において表彰を行う。

●参考：審査手順のイメージ

① 1次審査：応募作全品→最大104点

応募作品すべてをホールの床に並べて、審査員（構成員（1機関1名）とオブザーバー（1機関1名））が8点ずつ選定。8つ空欄がある投票用紙をもって、投票する（事前に応募作に番号をつけておく）。ここで選ばれたものは、ホールの別の場所の床に並べる。

② 敗者復活戦（2次審査の直前に実施）：最大104点+若干数

審査委員が必要に応じ、1次審査からもれたもののなかで印象に残るものがないかを確認し、あった場合には、ホールの別の場所に移す。

③ 2次審査（1次選考）：100点程度→25点程度

床に並べられた、1次審査通過作品を審査委員が確認し、5点ずつを選定（投票用紙方式か、付箋方式かについては検討）。

④ 2次審査（2次選考）：25点→最優秀賞1点+優秀賞3点

2次審査の1次選考を通過した作品を、机の上に並べる又は壁面に掲示する等を行った上で、審査委員（5名）による話し合い又は投票にて、最優秀賞1点と優秀賞3点を選定（ここでの選定方法は審査委員長が決定）。

⑤ 最終確定（3月下旬～4月上旬）

最優秀賞については、既存の類似作品が既に使われていないかどうかを確認した上で、最終決定。その後、本人に連絡するとともにホームページ等にて発表。